

## 卒業時学生の看護技術の到達度と実習指導者が期待する到達度

新潟医療福祉大学看護学科

袖山悦子, 佐藤純子, 坪川麻樹子, 中山和美, 宇田優子

【背景・目的】看護基礎教育の充実に関する検討会報告書<sup>1)</sup>において看護師教育の技術項目の卒業業時到達度が明確に示された。先行研究<sup>2)</sup>では、実習での体験が技術の習得に繋がっていた。本研究では、本学学生の厚生労働省の定めた看護技術142項目の到達度の実際と、実習指導者の期待する到達度を明らかにし、看護技術習得に向けた示唆を得ることを目的とする。

【方法】1)調査対象者・方法：H26年度卒業見込みのA大学看護学科4年生を対象にH27年2月に集合自記式質問紙調査を行い、当大学の実習病院の実習指導者に自記式質問紙を郵送し、回収した。2)調査内容：報告書<sup>3)</sup>にある「看護師教育の技術項目の卒業時到達度」の142の技術について、卒業時の到達度レベルⅠ～Ⅳ段階で調査した。到達度レベルは、Ⅰ：単独で実施できる、Ⅱ：指導の下で実施できる、Ⅲ：モデル人形で実施できる、Ⅳ：知識として分かる、のうち、一つを選択してもらった。3)分析方法：厚生労働省の定めた142の技術項目について、本学学生の到達度、実習指導者の期待する到達度をSPSSで集計し、学生の80%以上の回答割合と50%未満の回答割合について分析した。なお、臨地実習では、指導の下で実施することが原則となっていることから、到達度レベルⅠとⅡを合計した。また、到達度レベルⅢについては、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを合計した。到達度レベルⅣについては、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを合計した。本調査では、回答学生の割合を到達度とした。倫理的配慮：新潟医療福祉大学倫理委員会の承認を得て行い、対象者へは研究の意図及び倫理的配慮の内容を文書と口頭で説明し、同意書にて同意を得て行った。

【結果】1)学生：配布88名、回収88名（回収率100%）。有効回答率は、98.8%だった。2)実習指導者：配布130名、回収90名（回収率69.2%）、有効回答率は、100%だった。3)到達度80%以上の項目数（表1）

到達度レベルⅠ・Ⅱが80%以上の項目数は、厚生労働省の89項目に対して、本学学生は45項目と少なく、実習指導者が期待する25項目より多かった。項目内容は、【環境調整技術】、【活動・休息援助技術】、【清潔・衣生活援助技術】であった。到達度レベルⅢは、厚生労働省の21項目に対して、本学学生は4項目と少なく、実習指導者の10項目より少なかった。到達度レベルⅣについては、概ね達成出来ていた。

4)到達度50%未満の項目数（表2）

到達度レベルⅠ・Ⅱが、50%未満の項目数は、本学学生は12項目で実習指導者と同数であった。到達度レベルⅢについて

は、本学学生は、9項目で実習指導者は、1項目のみで乖離が見られた。項目内容は、【呼吸循環を整える技術】、【症状・生体機能検査】、【与薬】であった。身体の侵襲を伴うために授業・演習でモデル人形を使って出来ることが期待されている基本的な看護技術である。

表1 到達度80%以上の項目数

	Ⅰ・Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
厚生労働省	89	21	32
本学学生	45	4	30
実習指導者	25	10	27

表2 到達度50%未満の項目数

	Ⅰ・Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
本学学生	12	9	0
実習指導者	12	1	0

【考察】本学学生の到達度は、厚生労働省の到達度レベルⅠ・Ⅱ・Ⅲの項目数に達していなかったが、実習指導者の期待も低かった。看護技術は、講義・演習・実習を効果的に組み合わせ習得していく。到達度レベルⅢ「モデル人形で実施できる」が指導者の期待より低かったことから、学内演習方法や評価を検討していくことが必要である。中川<sup>4)</sup>が客観的知識だけでは不十分で、体験学習が必要であると述べているように、臨場感のある演習により、学生が興味・関心を持ち、臨地実習で積極的に学んでいけるのではないかと考える。

臨地実習では、受け持ち患者への看護過程の展開が課題になっていることから、指導者・教員共に看護過程の指導に時間を費やしている。そのため技術への関心が学生・指導者共に低下することが考えられる。今後は、厚生労働省が示した技術項目にも関心が向けられるように実習前の学生の看護技術習得の準備状態を整えること、実習評価の検討も必要である。

【結論】1)本学学生の卒業時看護技術の到達度は、厚生労働省の示した到達度レベルⅠ・Ⅱ・Ⅲにおいて低かった。2)本学学生の卒業時看護技術の到達度は、厚生労働省が示した到達度レベルⅢにおいて実習指導者の期待より、80%以上の到達度の項目数が少なく、50%未満の到達度の項目数が多かった。

### 【文献】

- 1)厚生労働省：看護基礎教育の充実に関する検討会報告書，2007。
- 2)袖山悦子他：卒業期看護学生の看護技術の経験と自信度，第14回新潟医療福祉学会学術集会，79，2014。
- 3)前掲1)。
- 4)中川米造：医学教育における体験学習，月刊ナーシング，11，(4)，57，1991。